

血液浄化センター卒後臨床研修カリキュラム

1. 研修目標

急性腎不全、慢性腎不全患者に対する適切な医療が施行できるために必要な基本知識、技能、考え方を習得する。また、肝疾患、膠原病、神経疾患、皮膚疾患、消火器疾患などに対して適切な血液浄化療法を選択し、施行できる。

(1) 保存期慢性腎不全患者の特異性を理解する。

保存期の慢性腎不全患者の治療目標は慢性腎不全の進行をできる限り抑制し、透析導入までの期間を長くすることである。そのため腎不全患者の特性を把握し、治療が適切に行えるよう指導する。透析導入がスムーズに行える。

(2) 透析患者の特異性を理解する。

透析患者における合併症を（特に長期透析合併症）理解し、適切な治療が施行できるようになる。

(3) 急性腎不全患者の管理ができる。

急性腎不全患者の適切な管理ができる。保存的治療を行い、透析導入を適切に行える。

(4) 各種疾患に対して適切な血液浄化（単純血漿交換、免疫吸着、二重ろ過血漿交換、リンパ球除去療法、LDL 吸着療法など）を理解し、施行する。

2. 行動目標

A. 経験すべき項目

- (1) 保存期腎不全患者の合併症を理解し、適切な治療を行える。
- (2) 透析患者の合併症を理解する。
- (3) 急性腎不全患者に対し、適切な輸液が施行でき、電解質、尿中排泄の結果を解釈し、治療につなげることができる。
- (4) 血液透析以外にも各種血液浄化療法のプライミングが施行できる。
- (5) 救急領域（多臓器不全患者）での血液浄化療法を施行できる。
- (6) 以下の手技を指導医のもとで実施できる
 - 1, 透析用のカテーテルを挿入
 - 2, 各種血液浄化療法の回路のプライミング
 - 3, シヤント手術の助手
 - 4, 内シヤントの穿刺

B. 経験すべき疾患

急性腎不全症例、慢性腎不全患者（保存期）、透析患者合併症例（二次性副甲状腺機能亢進症、多のう胞化萎縮腎、癌合併症例 透析アミロイドーシス、心疾患合併症例、など）、劇症肝炎、肝不全症例、免疫疾患（SLE など）、神経疾患（重症筋無力症、ギランバレー症候群）、潰瘍性大腸炎、多臓器不全患者